

第37回

令和2年5月21日(木)

「とやま賞」贈呈式

贈呈式・理事長との懇談

「とやま賞」とは…

富山県の置県百年を記念し、富山県の将来を担う有為な人材の育成に資する目的をもって昭和59年に創設されました。

受賞対象者は、富山県出身者または県内在住者で、学術研究、科学技術、文化、芸術及びスポーツの分野において顕著な業績をあげ、かつ将来の活躍が期待される個人または団体の活動を奨励するものです。



石塚選考委員長による選考経過報告



石井理事長より賞状・目録贈呈

第37回「とやま賞」贈呈式は、去る5月21日に、富山電気ビルにて執り行われました。

贈呈式では、受賞者に石井理事長から賞状及び奨励金目録が手渡されました。例年行われる受賞者による記念講演は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりましたが、贈呈式に先立って理事長との懇談が行われました。



今回の受賞者

理事長との懇談

学部卒業後は消化器外科の道を歩み、食道癌を専門にした私は多数の食道癌手術を日々執刀する一方で、食道癌の難治性と既存治療の限界を痛切に感じ、食道癌の予後向上に向けた研究に長年取り組んできました。食道癌は、悪性度が高く周囲への転移をきたし易いため、術前に化学療法を行ってから手術するのが標準です。しかし、同じ手術をしても化学療法がよく効いた場合のみ結果が良いので、手術前に治療効果の判定や予後を正確に予測することが、それぞれの患者さんに

この度は、伝統と名譽ある「第37回とやま賞」を賜りまして、財団関係者の皆様方に心から感謝申し上げます。
大学進学とともに生まれ故郷の富山県を離れてはや四半世紀、日常の診療・研究は常に多忙を極め、年末年始の帰省時しか過ごすことが叶わなかった富山県より、このような賞を頂くのは格別の喜びであり、古里の学校生活、恩師の先生方や友人・家族、そして無意識のうちに影響を受けた富山の自然環境が改めて懐かしく有難く思い起こされます。

術前画像診断による難治性消化器がん
個別化医療確立への貢献・術前化学療法
療法の新たな効果・予後予測法の開発！



牧野 知紀 氏

大阪大学大学院医学系研究科(消化器外科) 助教

学術研究部門 医薬分野「消化器外科」

適した「個別化医療」へと繋がります。本研究では、術前のCTやPET画像を用いて術前化学療法の治療効果を判定する新たな方法を開発しました。この判定法は、従来法と比較してより正確な予後予測を可能とし、その後の治療方針決定に大きく役立ちます。また食道癌に限らず他の癌にも応用できることから、その有用性・価値について多くの注目を集めました。

今後は頂いた賞を一生の励みとし、食道外科医としてこの難治性癌の制圧を目指して一層努力して参りたいと思います。文末にはなりますが、今回推薦頂きました大阪大学大学院医学系研究科長 森井英一教授、日頃よりご指導頂いております消化器外科 土岐祐一郎教授、江口英利教授をはじめとする大阪大学の皆様に深く御礼申し上げます。

学術研究部門

理工分野【光工学】

東北大学多元物質科学研究所 准教授



小澤 祐市 氏

ベクトルビーム光源の開発と超解像光イメージングへの応用

この度は、大変すばらしい賞を賜り、誠にありがとうございます。私が大学教員として採用された当時に「とやま賞」の存在を知り、この名誉ある賞をいつかは頂けるように、と思いつながら研究活動

を行って来ました。私は、高校卒業以来、故郷を離れて仙台の地で過ごしてきました。とは言っても、地元への思いは変わることは無く、富山県は私の誇りです。その意味でも、今回の受賞は大変光栄に思います。今回の受賞に際し、学生時代から今に至るまで、長年ご指導を頂いている東北大学多元物質科学研究所教授 佐藤俊一先生には非常に多くのご協力とご支援を賜り、この場を借りて御礼申し上げます。また、所属する佐藤研究室の学生、スタッフならびに他大学等の様々な研究グループの方々の協力関係があったからこそ得られた研究成果がほとんどであり、感謝申し上げます。

私の研究は、レーザー光を用いた様々な応用分野において、光そのものを巧みに操ることで、それらの応用分野における性能を大きく向上しようという取り組みです。光には波の性質があり、その波には振動する方向があります。この波の振動方向を光ビームの断面内で空間的に分布させると、これまでのレーザー光では得られない性質が生ずることが最近わかってきました。私は、ベクトルビームと呼んでいるこの新しい光をレーザー装置から発生させる方法を開発しました。また、このような光を用いると普通の光よりも小さく集光できることを見出し、これを応用したレーザー顕微鏡の開発によって空間分解能を大きく向上させることに成功しました。光に関する研究は長い歴史がありますが、まだ知られていない性質や可能性を多く秘めています。私は、このような光の持つ潜在能力を最大

限に引き出し、今後も新たなイメージングやレーザー加工などの様々な応用に展開していきたいと考えています。

科学技術部門

高分子材料科学

富山県立大学工学部 准教授



遠藤 洋史 氏

表面制御技術を駆使した高分子系多機能性マテリアル群の開発

この度は名誉ある「とやま賞」を賜り、富山県ひとつくり財団ならびに関係者の皆様に心より御礼申し上げます。また、これまでご指導・ご協力頂きました多くの先生方、学生諸氏、共同研究者の皆様ならびにいつも支えてくれる家族にこの場を借りて感謝申し上げます。

私は山形県出身で、学部・修士を富山大学工学部物質生命システム工学科(現・応用化学コース)にて学びました。特に、研究室配属後において北野博巳先生(富山大学名誉教授)の厳しくも温かいご指導のもと研究の基礎をたたき込まれました。当時は源明誠先生(現・富山大学准教授)が助手として着任され、後輩には中路正君(現・富山大学准教授)や安楽泰孝君(現・東京大学特任准教授)が在籍していました。アカデミア志向も高い活発な環境で、日夜研究に取り組んでいくことを思い出します。

東北大学で学位を取得してからは、つ

くば↓名古屋↓東京と国研や大学を渡り歩きました。そして2015年、北陸新幹線開業と同時に富山県立大学へ着任、11年ぶりに富山へ戻って来ました。学生時代と変わらない美しい環境に加え、ますます住みやすくなった富山は私にとって第2の故郷であり、公私共に充分した日々を過ごしています。

今回受賞頂いたテーマは、前職の東京理科大学(河合武司研究室)から継続して行っている内容です。私の専門分野は高分子材料科学であり、主に材料の表面や界面をデザインして物性制御や機能化を図ることにフォーカスしています。その中でもゴム材料の柔らかさに着目して、表面にリンクル(いわゆるシワ)を構築する独自技術を開発し、電気・光学・生体適応特性などの様々な機能性を付与することを試みてきました。また、ナノオーダー膜厚である極薄の有機シートや無機シートフィルムを活用して環境・エネルギー問題を視野に入れた、高性能触媒や複合材料の開発などにも取り組んで来ました。めまぐるしく変化する今だからこそ、変わらざるを得ないこと、変わらなければいけないこと、変わらざる大切にするところを見極める慧眼と柔軟さを大事にして、今後も学生と共に励んでいきたいと思えます。彼らを見てみると、マスクの下からは笑顔の嬉しい表情、じっと耐える険しい表情、物事を考える真剣な表情を垣間見ます。笑顔に満ちて浮かぶシワ、ハッピーリンクル(とも言える!?)の表情となる教育・研究活動に、これからも邁進していく所存です。

文化・芸術部門 彫刻

日展 日本彫刻会、富山県彫刻家連盟所属 会社員



森田 一成 氏

未来多い若き彫刻家

この度は、栄えある「とやま賞」を頂き誠にありがとうございました。

富山県ひとつくり財団ならびに関係の皆様、推薦して下さいました彫刻家の熊谷喜美子先生に心より感謝申し上げます。

私が彫刻を始めたきっかけは高校1年生の時、日展作家の横山丈樹先生との出会いにあります。ちよっとした用事で先生の家へ行き、作品を制作している先生の姿を見て「僕もやってみよう」と思ったのが全ての始まりでした。当初は先生も両親も反対していましたが、先生にはデッサンと塑造の個人指導をしてもらい、美大への進学を両親にお願いする時も一緒に来てもらった人生の恩人です。

井波高校の普通科を卒業後、熊本の崇城大学に進学し、学部で4年間人体制作の基礎を学び、修士課程の前期で2年、後期で3年間助手を務めながら作品制作と研究を続けてきました。

平成24年(2012年)に富山で就職が決まったのをきっかけに大学を離れ、翌年に中古の一軒家を購入。大学での先生の「自分のアトリエは自分で作ってこ

そ本家の彫刻家だ」の言葉に感銘を受け、購入した家の内装を全て解体し、アトリエのある住居にセルフリノベーションしました。住めるようになるまでは2年以上掛かりましたが、自分のアトリエを造るといふ夢をかなえることが出来ました。

学生の頃は、美術の教諭や大学の教授、彫刻家として生きていく人生に憧れていました。今は自分の作品を制限されずに制作出来る事と、展覧会への出品を継続しながら生活が出来ている事に喜びを感じています。

主に展覧会や美術展への出品に向けて制作をしているのが現状ですが、いつか納得の出来る作品が揃った時に「森田一成彫刻展」を開くのが次の目標です。

今回の受賞は私にとって大変励みとなる賞になりました。これからも精進してまいります。本当にありがとうございました。

文化・芸術部門 建築

富山大学芸術文化学系 准教授



横山 天心 氏

富山を活性化させる建築デザインの探究とその実践

この度は名誉あるとやま賞を賜りまして誠にありがとうございました。受賞に値する業績を残せていたか不安ではありましたが、応募最終年齢となったためチャ

レンジさせていただきました。過去の受賞者リストを拝見したところ建築部門では初の受賞となっております、ただただ恐縮しております。

私は南砺市旧井波町に彫刻家の三男として生まれ、大学進学迄の18年間を富山でのびのびと過ごしました。東京での10年程の学生生活の後、富山大学に赴任し教育・研究活動を始めました。帰郷して改めて富山の美しい自然と厳しい気候を、そして豊かな伝統文化に気付かされ、それらを活かした富山らしい建築の在り方を探究してきました。

建築としては、富山の寒く暗い冬を、家のどこにいても明るく温かく過ごせる「House O」、新興住宅地での新たなコミュニティの核となるよう、公園と一体化した「木津の庄コミュニティセンター+公園」、高岡の伝統工芸と現代産業の粋を散りばめられた「新高岡駅観光交流センター」、50年後も変わらぬ魅力を発信する県都の玄関口に相応しい「富山駅南北自由通路+南口交通広場」、将来歯抜け状態になるであろう町屋街区を生き活きとした街並みに変えていく「街のヴォイドに開く町家」の設計に関わってきました。まちづくりとしては、重要伝統的建造物群保存地区に指定された高岡市金屋町で行った、町全体を工芸のゾーンミュージアムにした「金屋町楽市」、金屋の街の魅力を余すところなく体験できる「ミラレ金屋町」、富山市八尾町で行っている町屋の窓明かりを影絵で彩る照明実験「街明かりプロジェクト」に携わり、住民の方々と共に、活

き活きとした地域づくりを実践してきました。このように建築やまちづくりを通して富山を元気にすることが私のライフワークです。

最後になりますが、これまでの活動にご指導・ご協力・ご支援頂いた皆様方、そしていつも陰ながら支えてくれる家族にこの場を借りて感謝申し上げます。この受賞を励みに、今後も微力ながら故郷富山に貢献できるよう、研究・教育に邁進していきたいと思っています。

スポーツ部門 バドミントン

トナミ運輸株式会社



保木 卓朗



小林 優吾
ペア

第25回 世界バドミントン選手権大会 男子ダブルス準優勝

この度は、栄誉ある「とやま賞」を受賞することができ、たいへんうれしく思います。また、この受賞に際しましてご高配を賜りました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

私たちがペアが世界選手権準優勝を果たすに至るまで、決して順風満帆だったとは言えず、むしろ苦難の連続であったと、いっても過言ではありません。その中で

も私たちの運命を左右することとなる、いくつかのターニングポイントがありました。

【田舎】

遡ること12年前、私たちの出身地は宮城県・山口県と異なりますが、バドミントン道を志すため共に福島県富岡町立富岡第一中学校へ越境入学しました。この学校は、連携型中高一貫校（富岡町立富岡第一中学校 ↓ 福島県立富岡高等学校）で中1〜高3までの生徒たちが寮生活を共にし、毎日バドミントンに打ち込める環境でした。そこで、大堀均先生当時富岡高校総監督・現トナミ運輸コーチ）と出会い、厳しくも楽しい有意義な寮生活を通し、基本的生活習慣を確立させ、早くして自立できたものと確信しています。また、日々の厳しい練習を通して、バドミントン技術は勿論のこと、諦めない心・挑戦する心など内面的にも大きく成長できた時期だったと思います。

【東日本大震災】

私たちは中学3年生、卒業式当日の出来事です。味わったことのない地震・津波、さらには富岡町が福島第一原発から約10kmに位置していたため、メルトダウンによる緊急避難など、生まれて初めての命の危機を感じました。この経験から命の尊さを再認識したと同時に、大好きなバドミントンができる喜びを知り、どうせやるならもっともつと強くなりたいと思うようになりました。私たちのメンタルを支えているのは、今でもこの経験によるものです。

【トナミ運輸】

社会人1年目、先輩方とのレベル差は歴然で、思い通りの結果を残すことができませんでした。またトナミ運輸メンバーのほとんどが日本代表選手だったため、普段の練習は私たちも含め4人、強くなりたくて必死に練習していたことを思い出します。今では日本代表A選手として活動していますが、間違いなくこの時期の思いや取り組みが、私たちを強くしてくれたものと思います。

これらターニングポイントも含め、現在に至るまでたくさんの方々と出会い育てていただきました。まだまだ発展途上の私たちですが、これからも周囲への感謝の気持ちを忘れずにさらに精進を重ね、子供たちに大いなる夢を与え、富山県の皆様さらには故郷福島県の皆様にもビックニュースを届けられるようなプレイヤーを目指してまいります。そしていつの日か「とやま賞」に相応しい人間に成長したいと思えます。



お知らせ

第39回「とやま賞」の候補者推薦募集について

募集について、以下のように行う予定です。（令和3年3月時点）

賞を贈呈する部門・分野

学術研究部門（医薬・理工・人文社会の3分野）、科学技術部門、文化・芸術部門、スポーツ部門の4部門3分野

候補者の条件

下記の（1）と（2）の条件をすべて満たすこと。

（1）富山県出身または富山県在住の者

（2）各部門・分野ですぐれた業績を挙げ、活躍が期待される45歳までの個人または団体

※その他の条件については、当財団HP

<http://www.t-hito.or.jp/zaidan/toyamashou/data/boshu.html>

推薦募集期間

令和3年10月初旬～令和3年11月中旬